



「終戦の日」(2019)

「全国戦没者追悼式」

不戦の誓い 令和も

陛下「深い反省」踏襲

終戦74年、戦没者追悼式

終戦から74年を迎えた15日、政府主催の全国戦没者追悼式が東京都千代田区の本武道館で開かれ、参列した遺族らは先の大戦で亡くなった約310万人を悼み、不戦の誓いを新たに。令和初の追悼式、戦後世代の天皇陛下はお言葉に「深い反省」という文言を盛り込み、上皇さまの姿勢を継承された。安倍晋三首相は式辞で「歴史の教訓を深く胸に刻み」と述べたが、アジア諸国への加害責任には7年連続で触れなかった。戦争経験者が急速に減る中、記憶の風化が懸念される。

2、3、5、15、20、21面に関連記事



全国戦没者追悼式でお言葉を述べられる天皇陛下と皇后さま
—15日午後、東京・日本武道館

天皇陛下お言葉全文

本日、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦において、かかげのない命を失った数多くの人々その遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。終戦以来74年、人々のたゆまない努力により、今日のわが国の平和と繁栄が築き上げられました。和と繁栄に満ちた国民の歩み

みをおうとき、誠に感慨深いものがあります。

戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ、ここに過去を顧み、深い反省の上に立って、再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願ひ、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、全国民と共に、心から追悼の意を表し、世界の平和とわが国の一層の発展を祈ります。

陛下のお言葉 平成最後との主な変更点

終戦以来74年、人々のたゆまない努力により、今日のわが国の平和と繁栄が築き上げられました。多くの苦難に満ちた国民の歩みを思うとき、誠に感慨深いものがあります。戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ、ここに過去を顧み、深い反省の上に立って、再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願ひ、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、全国民と共に、心から追悼の意を表し、世界の平和とわが国の一層の発展を祈ります

- 今年 ← 昨年
- 人々の ← 国民の
- 多くの苦難に満ちた国民の歩みを思うとき、誠に感慨深いものがあります ← 苦難に満ちた往時をしのぶとき、感慨は今なお尽きることがありません
- 深い反省の上に立って ← 深い反省とともに

「象徴」の継承示す

上皇さまの非戦の祈りも

戦後生まれの天皇陛下が初めて全国戦没者追悼式に臨まれた。陛下は国民に向けた「お言葉」の中で、上皇さまが平成の最後に4年連続で述べた「深い反省」という文言や、非戦の祈りを踏襲し、平和を希求する「象徴」の継承を示した。今回は平成最後の「お言葉」に、上皇さまとともにも「深い反省」という文言が加わることになった。

戦後生まれの天皇陛下が初めて全国戦没者追悼式に臨まれた。陛下は国民に向けた「お言葉」の中で、上皇さまが平成の最後に4年連続で述べた「深い反省」という文言や、非戦の祈りを踏襲し、平和を希求する「象徴」の継承を示した。今回は平成最後の「お言葉」に、上皇さまとともにも「深い反省」という文言が加わることになった。

(佐賀新聞 2019.8.16 付)

記事から読み取ろう

○天皇陛下のお言葉や安倍首相の式辞で印象に残ることばは何ですか。

○「昭和の戦争」は確実に遠のいている、というのは、どういうことを指すのだろう。

◎「終戦の日」に寄せて考えたこと・思ったことを話し合おう。